

ドイツ語 (初級 A) 第 5 回 定動詞の位置 (主文)、動詞の現在人称変化 (続)

範囲: 教科書第 2 課 B、第 3 課 A (S. 14-16)

《今回の基本例文》

10. Frau Bauer nimmt den Urlaub und fährt nach Italien. (CD17-9)

バウアーさんは休暇を取得し、イタリアに行く。

[幹母音が a → ä に変音する動詞、幹母音が e → i に変音する動詞、(前置詞)]

11. Petra spricht sehr gut Japanisch. (CD17-2)

ペトラは非常に上手に日本語を話す。

[幹母音が e → i に変音する動詞、(形容詞の副詞用法)]

12. Er sieht die Ampel nicht. (CD17-4)

彼は信号を見ていない。

[幹母音が e → ie に変音する動詞]

I 語順の法則 (主文篇): 定動詞第 2 位の原則

B. 定動詞の位置 (1) (S. 14)

■ 定動詞第 2 位の原則

主文 → 定動詞第 2 位の原則

= 定動詞を 2 番目に持ってくる

* 主文とは、副文 (従属の接続詞、英語でいう *because* や *if* や関係代名詞などで導かれた文) ではない文のこと。副文についてはのちに学習する。 (⇒教科書第 8 課 C)

** 定動詞とは、人称変化した動詞のこと。不定詞 (人称変化していない動詞) に対する概念。すでに学習した。

◇ 授業第 3 回で、単純な文の組み立て方を紹介した (配付資料 S. 7-8)。ただし、これはあくまでも便宜的なもので、そこで出てきた文は英語と似た SVO/SVC 型だけだった。しかし、本来のドイツ語の語順の考え方は英語と大きく異なる。ここでは、基本的な語順の原則について学ぶ。

◇ ドイツ語の文 (主文) では、定動詞 (人称変化させた動詞) が各要素のうちの 2 番目に入るのが原則である。これを「**定動詞第 2 位の原則**」などと呼んでいる。

第 2 位

Er **trinkt** abends Bier. (主語が第 1 位なら英語と同じ主語—動詞—目的語の語順)

Abends **trinkt** er Bier. (副詞が第 1 位なら副詞—動詞—主語—目的語の語順)

Bier **trinkt** er abends. (目的語が第 1 位なら目的語—動詞—主語の語順)

彼は晩にビールを飲む。

* 英語の場合は SVO 語順が絶対に崩れないのと比較せよ。例えば、*He drinks beer in the evening.* の副詞句 *in the evening* を文頭に
出しても、*In the evening he drinks beer.* となる。

定動詞第 2 位の原則を守る限り、どの語順でも文が文法的に成立するが、一般的には、

- ・一般に、最も強調したい要素を第 1 位に置く。

* 上記の例文の場合、abends を文頭に出すと「晩に」が、Bier を文頭に出すと「ビールを」が強調される。

- ・定動詞と最も結びつきが強い要素 (4 格目的語、移動の目的地など) は、第 1 位に来ないのであれば、動詞から最も離れた文末に置く。これを**枠構造**という。

* 上記の例文における 4 格目的語 (Bier) の位置を確認せよ。これも英語とは異なる点で、英語では動詞のあとにすぐ目的語が続く (He drinks beer in the evening.) のが普通。

** ただし、定動詞第 2 位の原則は必ず守らなければならないが、「4 格目的語などを文末」は守らなくても間違いではない。

- ・主語は、第 1 位に来ないのであれば、定動詞のすぐあと (第 3 位) に置く。

◇ 補足疑問文も、定動詞第 2 位の原則に従って文をつくり、疑問詞は第 1 位に置く。 定動詞と結びつきの強い要素を最後に置くのは平叙文のときと同じ。

第 2 位

Wer **trinkt** abends Bier? (疑問詞 wer 「誰が」が主語である場合)

誰が晩にビールを飲みますか。

Wann **trinkt** er Bier? (疑問詞 wann 「いつ」が副詞である場合)

いつ彼はビールを飲みますか。

Was **trinkt** er abends? (疑問詞 was 「何を」が目的語である場合)

なにを彼は晩に飲みますか。

◇ 一方、決定疑問文は、定動詞を第 1 位に置き、主語はその次に置く。 定動詞と結びつきの強い要素を最後に置くのは平叙文のときと同じ。

第 1 位

Trinkt er abends Bier?

彼は晩にビールを飲みますか。

練習

指示に従って文を書き換えよ。

1. Ich lerne Deutsch. (Deutsch を文頭に)

2. Ich bin Studentin. (Studentin を文頭に)

3. Peter wohnt jetzt in Berlin. (jetzt を文頭に)

4. Peter wohnt jetzt in Berlin. (in Berlin を文頭に)

5. Hanna übt heute zwei Stunden Klavier. (決定疑問文に)

* zwei Stunden (2 時間) は副詞的 4 格。

6. Hanna übt heute zwei Stunden Klavier. (Hanna を問う補足疑問文に)

7. Hanna übt heute zwei Stunden Klavier. (heute を問う補足疑問文に)

8. Hanna übt heute zwei Stunden Klavier. (Klavier を問う補足疑問文に)

9. Das ist der Tisch des Lehrers. (wem と gehören で des Lehrers を問う疑問文に)

10. Das ist das Haus einer Ärztin. (wem と gehören で einer Ärztin を問う疑問文に)

II 動詞の現在人称変化 (続): 幹母音変音型

A. 動詞の現在人称変化 (2) (S. 15)

■ 幹母音変音型の動詞の現在人称変化

◇ これまで動詞の現在人称変化として、規則動詞、規則動詞のヴァリエーション (arbeiten 型、reisen 型、tun 型)、不規則動詞 (sein、haben、werden) を学んできた (教科書第 1 課)。ここでは、現在人称変化の途中で幹母音 (動詞の語幹の母音) が変わってしまうタイプの不規則動詞を覚えよう。

◇ 二人称単数 (du に対する) と三人称単数 (er に対する) のみ不規則なカタチが現れるので、この 2 個所にだけ注目すればよい。

◇ これらの不規則な現在人称変化は、教科書巻末の不規則変化動詞表 (この教科書ではページ数がないので注意) のほか、辞書を引いても確認できる。また、辞書の巻末にも不規則変化動詞表があるのが普通。

1 a → ä 型

a → ä 型 : du と er に対して幹母音 a がウムラウトして ä に変わる

◇ 教科書 S. 15 の表をベースに確認してほしい。

	fahren	fallen	laufen
ich	fahre	falle	laufe
du	fährst	fällst	läufst
er	fährt	fällt	läuft
wir	fahren	fallen	laufen
ihr	fahrt	fallt	lauft
sie	fahren	fallen	laufen

* fahren は「vi. (乗物で) 行く」。英語と異なり、gehen (vi. 歩いて行く、英 go) とは区別する。

** fallen は英語の fall と考えてよい。

*** 発音上の注意が必要なのは、laufen のように幹母音が二重母音 au であるパターン。変音後は äu となるので、発音は教科書 S. 6 で学んだ規則に従って [ɔv] としなければならない。だから、不定詞 laufen[laufen]、ich laufe[laefe] に対して、du läufst[lɔvst] や er läuft[lɔvft] となる。

◇ ほかに、注意が必要なのは **halten** (vt. 〈4 格〉を保つ/つかんでいる、英 hold)。

	halten
ich	halte
du	hältst
er	hält
wir	halten
ihr	haltet
sie	halten

* 語幹が t で終わるのに、arbeiten 型とは異なり、du と er に対しては語調を整える e が入らない (ihr に対しては入る)。

2 e → i 型および e → ie 型 (S. 16)

e → i 型（幹母音 e が短母音[e]のとき）： du と er に対して e が i に変わる

e → ie 型（幹母音 e が長母音[e:]のとき）： du と er に対して e が ie に変わる

◇ e → i 型は、教科書 S. 16 の **sprechen** (vt. ～を話す、英 *speak*) をベースに確認してほしい。

	sprechen
ich	spreche
du	sprichst
er	spricht
wir	sprechen
ihr	sprecht
sie	sprechen

* sprechen については、もちろん発音規則に注意。

◇ e → ie 型は、教科書 S. 16 の **sehen** (vt. 〈4 格〉を見る、英 *see*) をベースに確認してほしい。

	sehen
ich	sehe
du	siehst
er	sieht
wir	sehen
ihr	seht
sie	sehen

◇ もちろん、幹母音が a や e だからといって、すべて a → ä 型や e → i 型/e → ie 型のような不規則変化をするわけではない。これまで登場した **machen** (vt. ～を作る/する)、**lernen** (vt. ～を習う) は、もちろんただの規則変化である。

■ 注意が必要な e → i 型/e → ie 型

◇ ほか、重要な動詞としては、**geben** と **nehmen** に注意が必要。

◇ **geben** (vt. 〈3 格〉に 〈4 格〉を与える、英 *give*) は、幹母音が長母音[e:]であるにもかかわらず du と er に対して i が現れる。ただし、発音は長母音[i:]で読む。つまり、文字上は e → i 型だが発音上は e → ie 型と同じになる。

	geben
ich	gebe
du	gibst [gi:pst]
er	gibt [gi:pt]
wir	geben
ihr	gebt
sie	geben

◇ **nehmen** (vt. 〈4 格〉を取る、英 *take*) は、幹母音が長母音[e:]であるにもかかわらず、du と er に対して i が現れ、実際に短母音[i]で読む。それに合わせて、長母音を示す h が消え、短母音を示すために m が 2 つになる。

	nehmen
ich	nehme
du	nimmst
er	nimmt
wir	nehmen
ihr	nehmt
sie	nehmen

練習問題の補足

Übung 1 (S. 15)

1~6. nach は前置詞 (⇒教科書第 5 課) で、移動先が地名 (固有名詞) であるとき用いる。

Übung 3 (S. 16)

5. Mädchen (女の子) は、生物学上の性は女性だが、-chen の語尾がつくと中性というルール (⇒「名詞の性別の見分け方」S. 2) が優先して中性名詞となる。

Übung 4 (S. 16)

- ein bisschen は副詞句で「少し、わずかに (英語の *a few*)」。
- sehr は副詞で「非常に」。
- da は副詞 (そこにいる) だが、名詞に後置して「そのの～」のようにも使える。
- geben は 3 格目的語 (～に) と 4 格目的語 (～を) の両方をとることができ、SVO₁O₂ 的な構文をつくる。 (⇒授業第 4 回配付資料 S. 6)

参考 その他の幹母音変音型動詞の現在人称変化表 (教科書第 3 課に登場するもの)

◇ a → ä 型。

	schlafen	tragen	waschen	fangen
ich	schlafe	trage	wasche	fange
du	schläfst	trägst	wäschst	fängst
er	schläft	trägt	wäscht	fängt
wir	schlafen	tragen	waschen	fangen
ihr	schlaft	tragt	wascht	fangt
sie	schlafen	tragen	waschen	fangen

* schlafen は英語の *sleep*、waschen は英語の *wash* と考えてよい。

** tragen は「vt. 〈4 格〉を運ぶ」が原義だが、衣類などに使うと「vt. ～を着ている」の意味になる。

*** fangen は「vt. 〈4 格〉を捕まえる」。

◇ e → i 型。

	helfen	treffen
ich	helfe	treffe
du	hilfst	triffst
er	hilft	trifft
wir	helfen	treffen
ihr	helft	trefft
sie	helfen	treffen

* helfen は英語の *help* と考えてよい (*vi.* 〈3 格〉を助ける)。ただしドイツ語では (4 格ではなく) 3 格目的語をとる。

(⇒授業第 4 回配付資料 S. 6)

** treffen は英語の *meet* と考えてよい (*vt.* 〈4 格〉に会う)。

*** つまり、helfen と treffen においては、日本語の「～を」→ドイツ語の 4 格、日本語の「～に」→ドイツ語の 3 格、という一対一対応は成立しない。このような場合も少なくないので注意。

◇ e → ie 型。

	lesen	empfehlen
ich	lese	empfehle
du	liest	empfehlst
er	liest	empfiehlt
wir	lesen	empfehlen
ihr	lest	empfehlt
sie	lesen	empfehlen

* lesen は英語の *read* と考えてよい (*vt.* 〈4 格〉を読む)。語幹が -s で終わる動詞なので変化形には *reisen* 型の要素が入っており、du liest, er liest となっている。

** empfehlen は英語の *recommend*。教科書に載っているため現在人称変化を記したが、現時点では複雑すぎる動詞であり、いまは覚えなくてもよい。

連絡先など

教員のメールアドレス：tokan@nifty.com 授業のウェブサイト（進捗表示、配付資料あり）：<http://lhasegawa.la.coocan.jp/lecture/>